

# Joe の豪ドル道場 (297)

(毎週月、水、金)

—豪州在住、侍ディーラーが豪ドルの真髓に迫る—

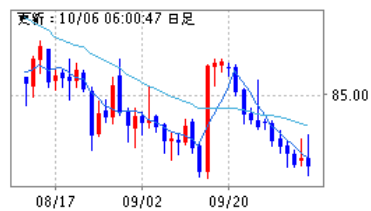
<モットー> “豪ドルを国際通貨の枠組みでとらえるとともに、豪ドルに  
 対する国内、対外要因を豪州市場から直接・徹底分析”

(豪ドル米ドル日足)

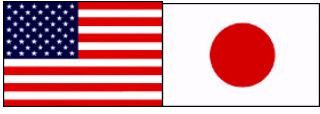
(豪ドル円日足)

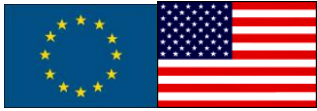
(米ドル円日足)

(ユーロ米ドル日)



<長期予想ビジョン> 年末から来年にかけて米ドル底打ちの見方

通貨ペア	2010年12月末予想推移 (レート/変更日/実勢)
	0.8700 (予想レンジ 0.75-0.95) (31Mar 2010/0.9150) <b>0.9100 (予想レンジ 0.9000-0.9800)</b> (24Sep 2010/0.9580)
	87.00 (予想レンジ 73.00-93.00) (31Mar2010/85.5) <b>86.45 (予想レンジ 73.00-88.00)</b> (31Mar2010/85.5)
	100.00 (予想レンジ 85.00-102.00) (31Mar2010/93.50) 100.00 (予想レンジ 82.00-102.00) (11Aug2010/85.35) <b>95.00 (予想レンジ 82.00-97.00)</b> (27Sep2010/84.25)



1.3000 (予想レンジ 1.27-1.45) (31Mar2010/1.3400)

## 2009年12月末予想と実際のクローリング相場

通貨ペア	12月末予想値	実際のクローリング・レート
AUDUSD	0.9000	0.8980
AUDYEN	81.00	83.50
USDYEN	90.00	93.00
EURUSD	1.4500	1.4320

## 2010年6月末予想と実際のクローリング相場

通貨ペア	6月末予想値	実際のクローリング・レート
AUDUSD	0.8700	0.8404
AUDYEN	82.65	74.26
USDYEN	95.00	88.37
EURUSD	1.2500	1.2167

### <キーワード>

日銀実質ゼロ金利政策 (10/5)、米追加緩和観測、ドル円 15年ぶりの安値更新 82.88 で日銀介入 (9/15)、前回 85 円割れ 84.82 (2009/11/27)、米国景気減速、中国景気減速、中国貿易黒字拡大、人民元弾力化政策、米国出口戦略後退、新鉱物資源利用税 (MRRT)、欧州懸念再燃？ RBA6月以降金利据え置き (5月6回目の利上げ (5/4) -2009年10月、11月、12月、3月、4月、5月 25bp 利上げ)、中国金融引き締め、中国不動産投資規制、中国の銀行融資規制、金価格史上高値更新 1316.00 (9/30)、米商業不動産問題、ドルキャリートレード、中国の豪州資源投資、日米ゼロ金利はいつまで続く？ドル円 100 円超えから反落し 100 円に戻らず (2009年4月以降)、RBA 豪ドル買い介入 (10月、11月 2008年)、RBA78 セント台で利食いの売りの噂 (2009年5月)、RBA の市場でのネット豪ドル売りは 2010年8月 397mio、7月 570mio、6月 1229mio、5月 445mi、4月 350mio、3月 892mio、2月 424mio、1月 295mio、2009年12月 946mio、11月 313mio、10月 307mio、9月 830mio、8月 576mio、7月 705mio、6月 1.94bio、5月 1.55bio 外為市場で豪ドルネット売り (一種の売り介入との捉え方も)

## <注目イベント>

4日（月）シドニーレイバーデー休場、ユーロ圏 PPI、米製造業受注、中古住宅販売保留指数、5日（火）中国と EU 会合、日銀金融政策決定会合、RBA 理事会、ユーロ圏サービス業 PMI、米 ISM 非製造業景況指数、6日（水）日銀金融経済月報、ユーロ圏 Q2GDP（確報値）、独製造業受注、米 ADP 民間雇用者数、7日（木）豪雇用統計、独鉱工業生産、英中銀政策金利、ECB 政策金利、米新規失業保険申請件数、8日（金）日国際収支、加雇用統計、米雇用統計、ワシントン G7、12日（火）英国 CPI、13日（水）豪 WESTPAC 消費者信頼感指数、英失業率、ユーロ圏鉱工業生産指数、14（木）日本国内企業物価、米 PPI、貿易収支、新規失業保険申請件数、15（金）日本設備稼働指数、ユーロ圏 CPI、貿易収支、米ニューヨーク連銀製造業景気指数、小売売上高、CPI、ミシガン大学消費者信頼感指数、企業在庫

## <当地の気になる情報>

豪州準備銀行(RBA)は5日、政策金利のオフィシャルキャッシュレートを4.50%に据え置いた。据え置きは5カ月連続。市場では25ベーシスポイントの利上げを予想する向きも多かった。

当局者は最近、インフレ圧力を抑制するため利上げする必要性を指摘していたため、予想外の決定となった。ただ RBA は声明で、インフレ率を中期的な目標と一致させるため、ある時点で利上げが必要になる可能性が高い、と言及した。RBA は声明で、理事会は金利水準が当面適切だと認識しているとし、「経済情勢が、現在の理事会の予想通りに推移すれば、インフレ率を中期的な目標と一致させるため、ある時点で利上げが必要になる可能性が高い」と明らかにした。今回の理事会を前に、市場は利上げの確率を70%以上織り込んでいた。

## <豪ドル相場解剖>

・ 豪ドルトレンド 6カ月間 ----波動相場から上昇トレンドへ

豪ドル→93セント中心±500ポイント、

豪ドル円→80円中心±500ポイント)

・ 足元のセンチメント

ブリッシュだが徐々に達成感も

## ・足元の予想

## 高値圏での揉み合い（利食いと新たな買い）

(大局－相場力学) 2008年7月から10月にかけて大暴落(史上高値98セント台→60セント台、104円台→55円台)した豪ドルは、2008年末～2009年年始にかけて下部の“鍋底”を形成して上昇エネルギーを蓄えた。2009年3月より上昇モーメント徐々に積み上がり年間を通して上昇トレンドを形成(94セント台、85円台まで)し2010年3月まで上昇トレンド継続した。4月に戻り高値93セント台、88円台の高値を付けた後、上方エネルギー放出→再蓄積のサイクルを繰り返してきたが、5月に下方モーメント爆発して80セント台、71円台まで大幅下落。その後は概ね81セント台～93セント台、73円台～80円台の比較的大きなレンジ内での“波動相場”を形成。現在97セント台と豪ドルは従来の波動の上限をブレイクした感がある。豪ドル円は上限で止まる。

### (2002年～今日までの動き)

2000～2001年の国内景気後退で軟調推移していた豪ドルは、世界経済の拡大基調を背景とした国際商品価格の大幅上昇や、国内景気回復に伴うRBAの金融引き締めによる金利格差が追い風となり、2002年から長きにわたり上昇トレンドを形成した。アセットバブルの急膨張を背景に2008年7月には史上高値<0.9848、史上高値(7/15)、104.47円(7/21)ただし豪ドル円の史上高値は107.88(2007/10/31)>を出現したが、直後リーマン破綻に象徴される世界金融恐慌が勃発し暴落を演じた。0.6009(2008/10/27)、55.20円(2008/10/24 史上安値)まで下落し、2008年末～2009年年初にかけて下値圏で保合相場を形成。2009年年初より各国協調によるドラスティックな財政・金融両面からの景気刺激策実施を受けて世界的に株価が2009年3月に底離れしたのを契機に4月以降上昇に転じ、6-8月は77セント-84セント、70円-82円での中段保合を形成。世界の株価や商品相場の堅調と国内景気の前予想を上回る回復を背景にRBAは2009年10月から3ヶ月連続で政策金利を25bpずつ引き上げて史上最低レベル(3.0%)のオフィシャルキャッシュレートを12月には3.75%とした。豪ドルも10月以降再度上昇トレンドを開始し11月には2009年年間高値<0.9406(2009/11/16)、豪ドル円は85.32(2009/10/23)>を付けた。2010年年初は新年の世界経済への期待感、株価堅調、商品相場の上昇などを背景に93セント台、86円台まで上伸してスタートしたが、その後中国の金融引き締め(預金準備率引き上げ)、ギリシャ初め南欧諸国の信用リスク、オバマ大統領の新金融規制案でリスク許容度が低下して商品相場、株価が調整局面に入り、更にRBA金利据え置き決定(2/2)で一時86セント割れ、76円近辺に大幅下落(2/4)。その後は豪州の金利格差(3月利上げ)、景気格差、商品相場の堅調が豪ドルをサポートする一方、ギリシャ問題など南欧の信用リスク問題や中国の金融引き締めなどのリスク要因が売り材料となり一進一退を繰り返した。

4月に入り5回目の利上げも後押しして今年の高値0.9389、88.07円まで上昇したが、根強いギリシャ問題、人民元切り上げ観測、ゴールドマンサックス訴追問題などでリスク回避の動きも強く、5月の6回目の利上げを挟んで0.91～0.93台、85円～87円台でのUP & DOWNの揉み合いを繰り返した。しかし5月半ばにかけて欧州ソブリンリスクの世界蔓延懸念から市場パニックとなる中、リスクアセット全般が大幅下落し、豪ドルも80セント台、71円台まで暴落したが、5月末にかけてさすがに徐々に落ち着きを取

り戻し 85 セント台、78 円台まで値を回復したが、リスク回避の動きに上伸を阻まれる。6 月金利据え置き、Q1GDP の結果は予想の範囲内、高値 0.8523、79.03 円まで上がって再び欧州問題、弱い米雇用統計を受けたリスク回避の動きで 80 セント台、73 円台に反落。その後徐々に欧州問題こなれ、加えて中国の人民元政策柔軟化発表を受けて 88 セント、80 円まで反発。7 月に入り欧州懸念に加えて、米景況感悪化、中国景況感悪化と重なり 83 セント台、72 円台まで大幅下落。発表された 6 月豪雇用統計の非常に強い数字や資源税に対するギラード新政権の妥協も好感され、加えて欧州危機に対しても欧州銀行へのストレステスト実施であく抜け感強まり 88 セント台、78 円台に再び上昇したのち、中国の弱い指標や米景気後退懸念を嫌気して 86 セント台、74 円台まで反落。ストレステスト通過でリスク回避の巻き戻しで 90 セント台、79 円台まで上伸後、CPI を受けて 89 セント台、77 円台まで反落 (7/30)。8 月は米景気不安から米金利低下し豪ドルは 92 セント台に上昇する一方、ドル円の 84 円台への急落を反映して豪ドル円は 75 円台まで下落。連邦選挙結果は予想通りのハングパーラメントだったが、89 セント近辺、76 円近辺に小戻し (8/23) しかしドル円が 83 円台をつけ“円全面高”になるに至り、豪ドル 0.8800 近辺、73 円台まで急落 (8/24) 後、円高警戒感から一時 90 セント台、77 円台に反発 (8/30)、その後 88 セント台、74 円台に反落後、強い Q2GDP に続く予想より良い米 8 月雇用統計を受けて 91 セント台後半、一時 78 円近辺に上昇 (9/3) したが、ギラード政権続投による資源税を嫌気し、ドル円の 83 円台続落を受けて 90 セント台、76 円台前半に反落 (9/8)。強い 8 月雇用統計を受けて 92 セント台、77 円台へ反発し (9/10) 94 セント台に続伸。豪ドル円も日銀介入を受けたドル円の急騰を受けて一時 81 円台に続伸している (9/17) またスティーブンス RBA 総裁の「インフレ懸念の利上げ示唆」を受けて豪ドルは再び 94 セント台、81 円台に反発。FOMC の追加緩和期待を受けて豪ドル 97 セント台に続伸する一方、豪ドル円 80 円台に小幅反落 (10/4)。RBA 金利据え置きで豪ドルは一旦 95 セント台半ばに急落後 97 セント台に急反発。豪ドル円も 80 円割れから 80 円台後半に反発 (10/6)

向う半年の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.9000-1.0000、豪ドル円 73.00-88.00 円

### (小局) RBA 金利据え置きでドタンバタン

今週の RBA の金融政策の読みでは市場と私とで大きなズレがあったようだ。結果的には 10 月据え置き、10/27 のインフレ指数が高ければ 11 月利上げと読んでいた私の見方がここまでは正しかったが、市場は 7 割がた利上げを読んでいたとは知らぬが仏 (?!) まあたまにはあまり周りを見ないのもいいものだ。しかしその後の 95 セント半ばから 97 セント台への急反発を見るに付け、つくづく簡単に米ドル安地合は終わらないなあ、という感を強くする。ユーロの 1.38 台、ドル円の 83 円近辺、どれを見てもドル全面安地合に著変なしと言わざるを得ない。この分では金曜日の米雇用統計が若干良くてもこのドル安地合を覆すことは難しいであろう。その意味で“今週ある程度のドル反発”を予想した私の考えは間違えであったのか？豪ドルの調整は読んでいたが、95 セント半ばで調整は短命かつ瞬間的に終わったのか？まあ金価格が 1350 ドルまでつけており、これも根強いドル安地合を物語っていると言えよう。相場と言うのはそういうものだということであろう。ソブリンリスクの激震が走って 6 月に 1.18 まで、再度 8 月に 1.25 まで下落したユーロが何食わぬ顔で、多少状況が好転したからと 1.38 まで上昇しているのであるから。各国通貨切下げ競争だという。世界的にインフレ懸念がない現状、景気浮揚のためには自国通貨の切り下げ

が非常に有効ということらしい。だからといって1985年のプラザ合意の240円のドル円を80円まで三分の一に減価させながら貿易赤字を3倍に膨らませている米国に、なんの恩義あってかこれ以上全面ドル安のプレゼントをし続けていいものであろうか？と言うか、更に米ドル離れが進んで、肝心の巨額の米国財政赤字の海外からの補填が出来なくなったら、その時はどうするのであろうか？？だれも減価して損を蒙ると分かりきってれば、米ドルをこれ以上買わないであろう。通貨当局は“為替相場は市場に任せ、ファンダメンタルズに合致して動くべき”と繰り返すが、昨今のドル円の動きは投機的な動き以外の何もではなく、各国当局はそれにお墨付きを与えているに過ぎない。豪ドルは？と言えば“幸い”調整も終わったし、米ドル安が続く限りは上値トライを続けるのだろう。1AUD=1USDのパリティーに一気に行くかどうかは別であるが、これとてあと2百数十ポイントの話である。

(向う1週間の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.9600-0.9850 豪ドル円 79.50-82.50)

<豪ドル売り・買い指数—現状分析（前回の結果—当たり、はずれ—を踏まえて毎回レビュー訂正）>

豪ドルの好・悪材料の相場への影響度を項目別に分類して-10（最弱）から+10（最強）まで独自の手法で数値化したもの。項目数は適宜増減する。たとえば10項目であれば、理論上総合判断では最強を+100、最弱を-100となる。各要因は相関（または逆相関）関係があるが（たとえば市場センチメントがベアになればセンチメントは売り要因（-）となるが逆に市場は売りポジションになるので、ポジション調整の可能性から豪ドル買い要因（+）となりうるなど）。また同じ要因でも時間が経過すれば影響度は減少または消滅すると考える。

客観情勢の「目安」となる変動要因の数値化で“現状分析”が主眼。これを元に将来を予測する一助とする。総合判断の数字が「±50」以上など大きくぶれた時がチャンス！！

-10	-9	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+10
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

構成要因	ポイント	今回数値	前回数値
豪州ファンダメンタルズ（経済・政治）	<b>*Good</b> 9月熟練工求人率0.1%（前回-0.3%）（9/18）、8月NAB企業信頼感11（前回2）、企業景況感5（前回5）（9/14）、8月雇用統計（失業率5.1%、予想5.2%、前回5.3%、就業者数+30.9千人、予想+25千人、前回+23.5千人）（9/9）、7月住宅ローン+1.7%（+1.0%予想、前回-3.9%）（9/8）、8月ANZ求人広告2.6%（前	+1	+1



回 1.4%) (9/6)、8 月 TD 証券インフレ指数 +0.2% (+0.1%前回) (9/6)、8 月 AIG サービスインデックス 47.5%(前回 46.6%) (9/3)、  
**Q2GDP(前期比+1.2% (予想+0.9%、前回+0.7%) 前年比+3.3% (予想+2.8%、前回+2.7%) (9/1)**、7 月小売売上高+0.7% (予想+0.4%、前回+0.2%) (8/31)、Q2 経常収支 (-56 億ドル、予想-65 億ドル、前期-165 億ドル) (8/31)、Q2 企業収益 (+18.9%--2001 年 Q1 以来の高水準 (8/30)、予想+5.8%Q2 建設活動 (+3.5%前回+1.9%、予想+3.0%) (8/25)、Q2 住宅価格 +3.1%(予想+2.0%) (8/4)、豪政府連邦予算案は景気見通しを上方修正 2009/10+2.0% (前回+1.5%)、2010/11+3.25% (前回 2.75%) (5/11)、RBA 四半期金融政策報告 (8/6) 2010 年 GDP 予想 3.25% (前回から据え置き)2011 年 3.75%、2012 年 4.0%)、基調 CPI 予想 2010 年 2.75%、2011 年 2.75%、2012 年 3.0%  
**\*Bad**—9 月 AIG 製造業活動指数 47.3 (前回 51.7) (0/1)、8 月住宅建設許可-4.7% (予想 0.0%) (9/30)、9 月 WESTPAC 消費者信頼感指数 -5.0% (前回 5.4%) (9/15)、7 月貿易収支 +1,888mio (予想+3,100mio 前回+3438mio)(9/2)、7 月民間使用残高+0.1 (予想+0.3%) . (8/31)、7 月 HIA 住宅販売 (-7.0%、前回-5.1%) (8/30)、Q1CAPEX (民間設備投資) (-4.0%、予想+2.3%、前回-0.2%) (5/27)、Q2 週間平均賃金前期比+0.8% (前回+1.1%) 前年比+5.2% (前回+5.8%) (8/19)、Q2 賃金インデックス (+0.8%、予想+0.9%、Y/Y3.0%、予想 3.1%) (8/18)、豪 Q2CPI(前期比 0.6%、前年同月比 3.1%、RBA アンダーライニング CPI 前期比 0.5% (前回 0.8%) 前年比 2.7% (前回 3.05%) (7/28)、豪 Q2PPI、(前期比+0.3%、予想+0.8%、前回+1.0%、前年比+1.0%予想+1.5%、前回-0.1%) (7/26)、Q2NAB 企業信頼感指数 (6、前回 17) (7/23)、

市場センチメント (リスク値に対する円キャリーポジション造成・解消などに関わる)	NYK ダウ 193 ポイント上昇で 10,944 ドル、VIX インデックス-1.67 で 21.85 でセンチメント改善。	+2	+1
短期筋推定市場ポジション (キャリートレード、IMM ポジションなどから判断) 調整の有無	IMM は豪ドル買いポジションの 69,533 枚 (5,209 枚の BUY 増加) (9/28)。短期市場ポジションは依然豪ドル米ドルのロングだがやや減少。	-1	-2
商品相場	原油は 82 ドル台に上昇、金昨日 1343 の史上高値更新。CRB インデックスは 288 に上昇。石炭、鉄鉱石共に 9 月以降値下げ圧力。(石炭-7%?)	+3	+2
金利-2	10 月は利上げなかったが 11 月は依然利上げ観測強い (Q3CPI 発表 (10/27) 後) <u>米金利先高観後退で豪ドルフェイバー</u> 。市場予想は 2010 年年末 4.75~5.00%、2011 年年末 6.00%。米豪 10 年利回り格差 <u>2.4%に拡大</u> 。	+1	+1
需給	外貨投信は不冴え。今年は石炭、鉄鉱石.価格増加 (50-60%以上) を見込んだ需要。 <u>ただ年後半は中国景気スローダウンで値下げ圧力も</u> 。外債発行需要。今年は昨年より中国など海外からの直接投資、M&A に絡む豪ドル買い需要が増えそう。豪州穀物商社 AWB はカナダの肥料メーカーアグリウムの 1.2bio 買収案を受け入。フォスタービールに対する買収の話。アサヒビール、豪州第三位の飲料会社 P&N を 364mio 豪ドルで買収。	+2	+2
テクニカル (チャート)	一目均衡表の雲 (0.8920-0.9010、76.30-76.49)、ボリンジャーバンド (0.9303-0.9820、78.79-82.19)。豪ドル、豪ドル円ともに一目雲のはるか上だがボバンド上部で頭打ち。ただ昨日は両ペアともに長い下ヒゲを出している。RSI は豪ドル 69%、豪ドル円 58%にさすがに低下。	+2	-2



その他（日替わり）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ギリシャ問題/ユーロ圏経済</li> <li>・ 円売り豪ドル買いキャリートレード、<u>当局円高けん制</u></li> <li>・ 米国の出口戦略（景況、企業収益、ドル安/高）</li> <li>・ 中国関連（人民元切り上げ圧力、金融引き締め、経済指標 etc）</li> <li>・ 資源超過利潤税</li> </ul>	+2 +1 -3 -2 -1	+2 +1 -3 -2 -1
<b>“現状” 総合判断</b> （必ずしも今後の予測とはならず）	再び上げバイアス	<b>+7</b>	<b>0</b>

(\*Good, Bad は豪ドルにとってという意味)

## <トレーディング実践> ドル反発の自信後退、、、

昨日は自分としては予想通りの RBA 金利据え置きであったが、豪ドルがあそこまで下がってくれるとは??と疑問を抱きつつもありがたく利食い。まあポジション調整の色彩が強かったのであろう。しかしその後はドル円も瞬間芸で上がって下がったので、ここは予定よりも早く豪ドルロングを作り始めた（平均持値 0.9630）。本来はもっと下（0.92-0.93 あたり）でロング造成と思っていたが、全くその気配なし。その後はほぼ一方的に 0.97 台半ばまで上昇している。本来のドル反発シナリオでいけば再度豪ドルショートに振るべきかと思うが、ここは相場に勢いがあるのでロングキープ。というかユーロでロングにし切れなかった反省の意味もある。この米ドル全面安には未だに諸手を上げて乗っていけない。米金利低下=米ドル安???いつから相場はそんなに素直になったのか?まあ豪ドル円はいずれ 83-85 円ゾーンに上昇と思っているのでこれはこのまま。ドル円はもう損切り（82.70）が付いたも同然。このままというか、半分諦め。問題は 82.70 が付いたあと本当に 80 円を目差すかどうか?一瞬下に突っ込んでも介入警戒感が増すであろうから。おそらくは日本の当局から介入ギブアップかそれに類するシグナルが出ない限りは売りで突っ込んでいけないように思う。いずれにしてもドル円が焦点であるが、ドル円にとらわれるのは良策とは言えないであろう。

・ 前回のポジション

USDYEN long at 84.55 PT 85.00 86.00 SL 82.70

AUDYEN long at 79.20 PT 81.50 82.00 SL 79.00

AUDUSD short at 0.9680 **PT 0.9570 (DONE)** SL 0.9800

・現在のポジション

USDYEN long at 84.55 PT 85.00 86.00 SL 82.70

AUDYEN long at 79.20 PT 81.50 82.00 SL 79.00

AUDUSD long at 0.9630 PT 0.9780 SL 0.9650

本日の予想レンジ： 豪ドル米ドル 0.9650-0.9780、豪ドル円 80.50-81.30

### <懺悔の部屋>一過去の失敗から学ぶもの一

(心理面、技術面、チャート分析の3点より)

(その二百九十五) ナンピンしたいと思わない相場はそもそも魅力的ではない (心理論)

“ナンパしたいと思わないXXXはそもそも魅力的ではない” と言うと問題発言になるが(?) あくまでもナンピンの話。昔から“ナンピン固くこれ禁ず” という大相場師の家訓があったようであるが、今日日の為替相場では簡単に損切りばかりしては敵方の思う壺。もちろん「いつも利食いの本調子」であればそれに越したことはないが、なかなか思うように行かないのが相場というもの。したがって、[本当にナンピンしていい相場か? あるいは自分を窮地に追いやるだけか?] の見極めが極めて重要になる。それ以前に、ナンピンをしたいと思わない相場であれば、これは間違いなく逆方向にポジションを振るべきであろう。もちろんナンピンせずに一旦あるポイントでポジションを消して、考え直した末に同じ方向でポジションを取るのもある意味同じことであるが。(リスクエクスポージャーは減少)。ナンピンをしたくなる相場か、一旦降りたいと思う相場か? 人的判断にたよる場面でありテクニカルトレーダーには嫌われそうであるが、最終的には人それぞれの判断に負う訳であり、避けては通れない道である。

### <気になる出来事、発言>

出来事 (少々長いレビュー!!)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 日銀金融政策決定会合で利下げ (0.1%→0.00-0.1%) (10/5)</li><li>・ RBA 理事会で金利据え置き (4.5%) (10/5)</li><li>・ 米下院対中制裁法案を可決 (9/29)</li><li>・ 9月日銀短観—大企業製造業 DI(+8、予想+7、前回+1)、先行き (-1、予想+3、前回+3) (9/29)</li><li>・ 北朝鮮労働党代表者会で金ジョンウン氏、事実上の後継者に (9/28)</li><li>・ 米下院歳入委員会—人民元切り上げで対中制裁法案を可決 (9/24)</li><li>・ 日米首脳会談 (9/23)</li><li>・ 米 FOMC—金利据え置き 0.00-0.25%、金融緩和バイアス継続 (9/22)</li><li>・ 金価格史上高値 1290 ドル (10Z) に上昇 (9/21)</li><li>・ 政府・日銀ドル売り円買い介入 (82.90 近辺から 85 円台まで、ロンドン市場、NYK 市場まで) (9/15)</li></ul>
---------------------	--

- ・ 民主党代表選、菅氏勝利 (9/14)
- ・ 豪 8 月雇用統計 (失業率 5.1% 予想 5.2% 前回 5.3%、就業者数+30.9 千人、予想+25 千人、前回+23.5 千人) (9/9)
- ・ 豪州選挙結果 (下院) 一労働党 76 議席 < 過半数 > : 保守連合 74 議席 (9/7)
- ・ オバマ大統領総額 2900 億ドルの景気刺激策発表 (9/7)
- ・ 米 8 月雇用統計失業率 9.6% (予想 9.6%、前回 9.5%) NFPR-54 千人 (予想-105 千人、前回-131 千人) (9/3)
- ・ 豪州 Q2GDP—前期比+1.2% (予想+0.9%、前回+0.7%) 前年比+3.3% (予想+2.8%、前回+2.7%) (9/1)
- ・ 民主党党首選、菅、小沢二氏が出馬表明。投開票日 9 月 14 日 (9/1)
- ・ 日銀臨時会合 (8/30)
- ・ 小沢元幹事長民主党党首選挙への立候補表明 (8/26)
- ・ ドル円 15 年ぶりの安値 83.60 円に下落 (8/24)
- ・ 豪州総選挙 (ハングパーラメントに) (8/23 現在 150 全議席中労働党 72、保守合同 71、緑の党 1、無所属 3) (8/23)
- ・ 本来タカ派のウエーバー独連銀総裁の発言「欧州中銀は銀行への流動性供給を来年も続けるべき」欧州景気に対する警戒感高まる (8/20)
- ・ 日本 Q2GDP+0.1% (前期比予想+0.6%、前回+1.1%) +0.4% (前期比年率予想+2.3%、前回+4.4%) (8/16)
- ・ 日銀ドル円 85 円近辺でレートチェック (日銀確認) (8/12)
- ・ 豪 7 月雇用統計 (失業率 5.3% 予想 5.1% 前回 5.1%、就業者数+23.5 千人、予想+20 千人、前回+37.4 千人) (8/12)
- ・ 米 FOMC 金利ターゲット 0.00-0.25% で不変、「長期にわたる異例の低金利継続」、MBS・政府機関債の償還資金を米国債に再投資 (8/10)
- ・ 米 7 月雇用統計失業率 9.5% (予想 9.6%、前回 9.5%) NFPR-131 千人 (予想-65 千人、前回-221 千人) (8/6)
- ・ RBA 金利据え置き 4.50% (8/3)
- ・ 米第二四半期 GDP +2.4%(予想+2.6%、前回+3.7%) (前期比年率) (7/30)
- ・ NZ 準備銀行利上げ 2.75%→3.00% (7/29)
- ・ 豪州 Q2CPI 前期比 0.6%、前年比 1.0%、アンダーライイングインフレーション前期比 0.5%、前年比 2.7% (7/28)
- ・ EU ストレステスト 91 行中 7 行不合格 (7/23)
- ・ カナダ中銀政策金利引き上げ 0.50%→0.75% (7/20)
- ・ ギラード首相 8 月 21 日総選挙を発表 (7/18)
- ・ 中国の第二四半期 GDP +10.3%(前回+11.9%、予想+10.5%) (7/15)
- ・ Moody's ポルトガル格下げ Aaa2→A1 (7/13)
- ・ 民主党参院選の結果過半数割れ (7/12)
- ・ ワールドカップサッカー—スペインがオランダ破り優勝 (7/11)

- ・ 米財務省中国を為替操作国に認定せず (7/8)
- ・ 6月の豪雇用統計 (就業者数+45.9k、予想+15.0k、前回+22.8k、失業率5.1%、予想5.2%、前回5.2%) (7/8)
- ・ RBA金利据え置き 4.50% (7/6)
- ・ 6月米雇用統計、非農業部門就業者数-125千人 (予想-130千人、前回+433千人、失業率9.5%、予想9.8%、前回9.7%) (7/2)
- ・ 資源超過利潤税 30%で政府/鉱山会社合意 (7/2)
- ・ カナダ G8、G20 (6/26-/27)
- ・ 米 FOMC で出口戦略出ず (6/23)
- ・ 中国人民銀行人民元の柔軟化方針を発表 (6/19)
- ・ 欧州連合、金融機関のストレステスト実施で合意 (6/17)
- ・ EU 首脳会議 (6/17)
- ・ ムーディーズ、ギリシャ格付けを A3 から BA1 に格下げ。見通しは良好 (6/14)
- ・ FIFA ワールドカップ開催 (6/11)
- ・ BOE 政策金利据え置き (0.5%、予想 0.5%) ECB 政策金利据え置き (1.0%、予想 1.0%) (6/10)
- ・ 5月の豪雇用統計 (就業者数+26.9k、予想+20.0k、前回+25.3k、失業率5.2%、予想5.4%、前回5.4%) (6/10)
- ・ NZ 準備銀行利上げ (2.50%→2.75%) (6/10)
- ・ 米国5月雇用統計 (非農業部門就業者数+43.1千人—内国勢調査臨時雇用+411千人 (予想+500千人、前回290千人、民間は+41千人、失業率9.7% 予想9.8%、前回9.8%) (6/4) .
- ・ 豪州 Q1GDP 前期比+0.5% (予想+0.5%前期+1.1%)、前年比+2.7% (予想+2.4%、前期+2.8%) (6/2)
- ・ 鳩山首相辞任 (6/2)
- ・ RBA金利据え置き 4.50% (6/1)
- ・ 社民党連立政権を離脱 (5/30)
- ・ フィッチスペインを AA+に格下げ (5/28)
- ・ 米中戦略経済対話 (5/24-25)
- ・ 独政府、株、国債、CDS の空売り規制を独主要 10 行に実施 (5/18)
- ・ EU ギリシャに一回目の融資 145 億ユーロ実施 (5/18)
- ・ 4月の豪雇用統計 (就業者数+33.7k、予想+22.5k、前回+19.6k、失業率5.4%、予想5.3%、前回5.4%) (5/13)
- ・ ギリシャ政府正式に 200 億ユーロの支援実施を要請 (5/11)
- ・ 豪州連邦予算案 (2010/2011 年度) 発表 (5/11)
- ・ 英国保守・自民連立政権 (キャメロン首相) 成立 (5/11)
- ・ EU 財務相会議で EU 安定化プログラムに合意 (5/9)

- EU 総額 750bio(内 IMF250bio 拠出)のユーロ支援で合意 (5/9)
- 欧州各国リーダー/IMF は公式にギリシャ救済策 (80bio/30bio) を承認 (5/8)
- 米国 4 月雇用統計 (NFPR +290k、予想 190k、前回 230k、失業率 9.9% 予想 9.7%、前回 9.7%) (5/7)
- ソブリンリスク問題拡大を嫌気し NYK ダウ一時 1000 ポイント (1 万ドル割れ) 下落 (5/6)
- **RBA 利上げ 4.25%→4.50% (5/4) (6 回目)**
- EU 財務相会議でギリシャ救済策決定—総額 1,100 億ユーロ (EU が 800 億ユーロで 300 億は本年分、IMF が 300 億ユーロ、金利 5%)
- 中国今年 3 度目の預金準備率 0.5%引き上げで 17.0%に (5/2)
- 米国 Q1GDP 前年同月比+3.2% (予想+3.4%、前期+5.6%) (4/30)
- FOMC 長期間の低金利維持を再確約、FF 金利の誘導目標は引き続き 0.0%-0.25%(4/28)
- S&P スペインの格付けを AA に引き下げ (4/28)
- 豪州 Q1CPI、RBA インフレ率 3.05% (予想 2.95%、前回 3.4%) (4/27)
- S&P ポルトガルの格付けを A+から A-に引き下げ (4/27)
- S&P ギリシャの格付けを BB+ (ジャンク債等級) に引き下げ (4/27)
- ギリシャ政府 EU と IMF に支援要請 (4/23)
- ムーディーズ、ギリシャを格下げ A2→A3(4/22)
- IMF 豪州の GDP 見通しをアップワードリバイズ  
2010 年 3.0% (前回 2.5%)、2011 年 3.5% (前回 3.0%) (4/22)
- RBA 議事録 (4 月分) —金利は平均をわずかに下回っている。追加利上げの可能性 (4/20)
- 米証券監視委員会(SEC)サブプライム関連 CDO 取引でゴールドマンサックスを詐欺容疑で提訴 (4/16)
- 中国 Q4GDP (前年同期比) 11.9% (予想 11.7%、前期 10.7%)
- ワシントン核保障サミット (4/12-13)
- EU16 カ国財務相—ギリシャの要請があった場合 2 国間融資で 300 億ユーロまで資金供与で合意。期間 3 年、金利 5%程度 (4/11)
- 中国の 3 月貿易収支-\$0.7bio (2004 年 4 月以降初めての赤字) (4/10)
- 豪州 3 月雇用統計—失業率 5.3% (前回 5.3%) 就業者数+19.6 千人 (前回 -4.7 千人) full time job +30.1 千人 (4/8)
- **RBA 利上げ 4.00%→4.25% (4/6) (5 回目)**
- 3 月米国雇用統計、失業率 9.7%、NFPR+162 千人 (前回 9.7%、-14 千人) (4/2)
- 日銀短観 (Q3) 大企業製造業 DI-14 (予想-14、前回-24)、先行き-8 (予想-8、前回-18) (4/1)

- ・ 欧州首脳会合でギリシャ支援策合意—二国間融資と IMF の支援を組み合わせ (3/25)
- ・ フィッチ、ポルトガルのソブリン格付けを AA から AA-に引き下げ (3/24)
- ・ Google 中国の検索事業から撤退 (3/22)
- ・ 米医療保険改革法成立 (3/21)
- ・ インド中銀金融引き締め (リバースレポとレポ金利をそれぞれ 25bp 引き上げ (3/19)
- ・ FOMC—長期間にわたって金利を異例の低水準で据え置くことを継続 (3/16)
- ・ 豪州 2 月雇用統計—失業率 5.3% (前回 5.2%) 就業者数+0.4 千人 (前回 +56.5 千人) (3/11)
- ・ ギリシャ議会 4.8bio ユーロの財政削減策を予定通り可決 (3/6)
- ・ 米国 2 月雇用統計失業率 9.7% (予想 9.8%、前回 9.7%)、非農業部門就業者数-36 千人 (予想-68 千人、前回-20 千人) ((3/5)
- ・ 豪州 Q4GDP 前期比+0.9% (予想+0.9%、前回+0.2%)、前年比+2.7% (予想+2.4%、前回+0.5%) (3/3)
- ・ **RBA 利上げ 3.75%→4.00% (3/2) (4 回目)**
- ・ 独・仏銀ギリシャ債購入計画 (2/26)
- ・ フィッチ、ギリシャの 4 大銀行を格下げ BBB+→BBB(2/23)
- ・ 米 FRB 公定歩合を引き上げ (0.5%→0.75%) (2/18)
- ・ 中国人民銀行今年二度目の金融引き締め。預金準備率を 50bp 上げて 16.50%に (2/12)
- ・ EU 首脳会議—ギリシャ救済で合意。具体策は来週に持ち越し (2/11)
- ・ 豪州 1 月雇用統計—失業率 5.3% (予想 5.6%、前回 5.5%)、就業者数+52.7 千人 (予想+15 千人、前回+37.5 千人) (2/11)
- ・ カナダ・イカルイト G7—2010 年も景気刺激策の継続で合意 (2/7)
- ・ RBA 四半期金融報告 (GDP、CPI 予想を若干上方修正) (2/5)
- ・ 12 月豪州小売売上高-0.7% (予想+0.2%、前回+1.4%) (2/4)
- ・ RBA 理事会—金利据え置き 3.75% (2/2)
- ・ 米国予算教書 (2/1)
- ・ 米国 Q4GDP (前年同月比) +5.7% (予想+4.6%、前回+2.2%)
- ・ 米上院バーナンキ FRB 議長の再任を賛成多数で承認 (1/28)
- ・ FOMC 政策金利を 0.00%~0.25%で据え置き (1/27)
- ・ IMF2010 年世界経済見通しを 10 月時点の 3.1%から 3.9%に引き上げ (1/26)
- ・ 中国の 2009 年 GDP8.7% (1/21)
- ・ オバマ大統領金融規制案発表 (1/21)
- ・ 日本航空会社更生法の適用を申請 (1/19)



- ・ 鳩山内閣支持率年初の 56%から 45%に下落 (1/18)
- ・ 豪州 12 月雇用統計 (雇用者数+35.2 千人、予想+10 千人、前回 31.4 千人、失業率 5.5%、予想 5.8%前回 5.7%) (1/14)
- ・ 中国預金準備率引き上げ発表 (1/12)
- ・ 米国 12 月雇用統計、NFPR -85 千人 (前回+4 千人)、失業率 10.0% (前回 10.0%) (2010/1/8)
- ・ 菅新財務相 (2010/1/7) --もう少し円安に進んだ方がよい発言。
- ・ 藤井財務相辞任 (健康上の理由) (2010/1/6)
- ・ 豪州 Q3GDP-+0.2% (前期比、予想+0.6%、前回+0.6%) +0.5% (前年比、予想+0.7%、前回+0.6) (12/16)
- ・ **RBA 理事会で 3 カ月連続 25bp 利上げ 3.50%→3.75% (2009/12/1)**
- ・ ドル円 14 年 (95 年 7 月以来) ぶりの安値 84.80 に下落 (11/27)
- ・ ドバイショックドバイ・ワールドの債務返済延期要請 (11/26)
- ・ 米国 Q3GDP 改定値 (前期比年率) 2.8% (速報値 3.5%) (11/24)
- ・ 豪州 10 月雇用統計 (失業率 5.8%、前回 5.7%、就業者数+24.5 千人、前回+39.8 千人) (11/12)
- ・ RBA 四半期金融政策報告で 2009 年 GDP 見通しを従来の+0.5%から +1.75%に引き上げ。2010 年 GDP 予想を 3.25% (11/6)
- ・ **RBA 理事会利上げ 3.25%→3.50% (11/3)**
- ・ **中国第三四半期 GDP +8.9%(予想+9.0%、前期+7.9%) (10/22)**
- ・ **RBA 理事会—利上げ 3.00%→3.25% (10/6)**
- ・ 鳩山内閣発足 (2009/9/16)
- ・ 豪州 Q2GDP 前期比、前年同期比ともに+0.6% (予想前期比+0.2%、前回 +0.4%) (9/2)
- ・ 中国第 2 四半期 GDP 前年比 7.9% (7/16)
- ・ **豪州第 1 四半期 GDP 前期比、前年比ともに+0.4%でリセッション入り回避 (6/3)**
- ・ GM 破産法適用申請。負債総額 1728 億ドルで米歴代 3 位 (2009/6/1)
- ・ 日本の第 1 四半期 GDP-15.2% (前期比年率、戦後最悪) (5/20)
- ・ 豪州連邦予算案(2009年7月～2010年6月)発表。\$57.6bio 赤字予想(5/12)
- ・ ECB25bp 利下げして 1.00%、ユーロ建てカバーボンド買入れ (5/7)
- ・ クライスラー破産法申請 (4/30)
- ・ **RBA 利下げ 3.25%→3.00% (4/7)**
- ・ **ロンドン G20 (2009/4/2)**
- ・ ダウ一時 6467 ドルの新安値に下落。(3/6) 終値安値は 3/9 の 6547 ドル
- ・ 豪州 Q4GDP -0.5% (前期比) (3/4)
- ・ **米景気対策法 (7870 億ドル) 成立 (2/17)**
- ・ 日本の第 4 四半期 GDP 年率-12.7%(2/16)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 豪上院 420 億ドル景気対策法案を可決 (2/13)</li> <li>・ RBA 利下げ 4.25%→3.25% (2009/2/3)</li> <li>・ オバマ大統領就任式 (2009/1/20)</li> <li>・ 日銀は政策金利の誘導目標を引き下げ。0.3%→0.1%。また企業 CP 買取策を発表 (2008/12/19)</li> <li>・ 米 FOMC で FF 金利の誘導目標を 0.0%~0.25%に引き下げ (2008/12/16)</li> <li>・ RBA 利下げ 5.25%→4.25% (2008/12/2)</li> <li>・ 11/21 早朝 RBA 豪ドル買い介入 (5 回目) 0.6100 近辺。10 月 24 日、27 日、28 日、11 月 13 日に続く)</li> <li>・ 米金融安定化法 (7000 億ドルの TARP が柱) 成立 (2008/10/3/08)</li> <li>・ リーマン・ブラザーズ自力再建を断念し連邦破産法 11 条に基づく更生手続き適用を申請 (2008/9/15)</li> </ul>
<p>発言</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ストросカーン IMF 専務理事—日本の実質ゼロ金利政策で世界が通貨切下げ競争に突入する恐れがある (10/6)</li> <li>・ ジョージ・ソロス—ユーロはより浸透しているものの、勝利宣言をするには早すぎる。緊縮財政政策がデフレを引き起こしかねない (10/5)</li> <li>・ 野田財務相—日銀の決定が通貨市場を安定させることを希望。為替市場の動きについてはノーコメント (10/5)</li> <li>・ 野田財務大臣—G7 で為替について説明する可能性がある。日銀には金融面で支援してもらいたい (10/5)</li> <li>・ ゼーリック世銀総裁—二番底の心配はなくなったものの、成長は戻ったが</li> <li>・ バーナッキ議長—追加緩和は金融市場を緩和する作用があるとの認識。米国の労働市場は非常に厳しい時期にある。FRB は党派にとらわれない政策を追求 (10/4)</li> <li>・ オバマ大統領—米国の財政状態は受け入れがたい状況にあり、赤字削減に真剣に取り組まなければならない。一方教育など重点分野は配慮する必要がある (10/4)</li> <li>・ 温首相—我々はマクロ経済での協調を強化し、景気刺激策の出口戦略のタイミングとペースを慎重に管理する他、主要な準備通貨の為替相場を比較的安定した状態に維持することが必要 (10/4)</li> <li>・ 仙石官房長官—最近の通貨の動きは投機に傾きすぎており、円は急激かつ過度に強くなりすぎた。適正な為替水準は市場で決定されるべきであるが、投機による決定は望ましくない (10/3)</li> <li>・ 仏高官—G20 と中国間に人民元の為替レートを巡る秘密の交渉はない (10/3)</li> <li>・ IMF ストросカーン—ドルペッグ脱却をめざす中国の新政策は人民元上昇につながる (10/13)</li> <li>・ フレアティ—カナダ財務相—G7 では経済成長とアジア通貨の柔軟化につ</li> </ul>

	<p>いて再検証するだろう (10/1)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>野田財務相—必要な時に断固たる措置を取る。先月の介入規模に特別所感はない (10/1)</li><li>米ギブス報道官—人民元は過小評価されており、中国当局は改革を実施する必要がある (30/9)</li><li>バーナンキ FRB 議長—米経済が安定に成長していても多くの国民にとって明らかに厳しい状況 (9/30)</li><li>スワン財務相—銀行が RBA より先に利上げをする正当な理由はない (9/30)</li></ul>
--	---